

みなさん、おはようございます。

今年の夏休みは、いつもとちがって、とても短かっただけでなく、新型コロナウイルス感染が広がりつつある中で、多くの行動が制限される日々が続きました。その上、暑い日が続き、熱中症などの心配もある中でしたが、今日から2学期が始まります。

まだまだ、暑さも続きますし、感染症対策もしながらの生活が続きます。でも、一人一人がその意味を理解して、健康で、安全に過ごせるようにしましょう。

さて、今日は2学期のはじめに校長先生から3つの話をします。

1つ目は、75年目の夏の話、2つ目は、「勝つ」ことよりも「負けない」力をつける話、3つ目は「自分も他の人も大切にする」話です

まずは、75年目の夏の話です。皆さんも知っている通り、第二次世界大戦という戦争の中で、日本に原子爆弾が投下されてから75年。また、その戦争が終わってから75年めの夏を今年むかえました。みなさんは、戦争や原子爆弾の被害の話を、聞いたり本を読んだりしてある程度知っているかもしれませんが、しかし、自分の身近な人、家族や親せきの人などが、その戦争に参加していたり、そこで命を落としたりしたら、どうでしょう。よく、皆さんの会話の中で、ゲームで「殺す」とか「やっつける」などの声を聴きます。しかし、75年前、本当にそのようなことがあったということ、そして、それがどれだけの人を悲しめたかということも、この夏を機会に考えてほしいと思います。

今年の8月6日の広島での平和式典で、小学校6年生の人が、こんなことを話しました。

『当たり前だと思っていた日常は、ウィルスの脅威によってうばわれたのです。当たり前の日常は、決して当たり前ではないことに気付かされました。そして今、私たちはそれがどれほど幸せかを感じています。』

『75年前、一緒に笑い、大切な人と過ごす日常が、奪われました。昭和20年8月6日午前8時 15分。』(原爆が投下された時刻です)

『私たちは、互いに認め合う優しい心を持ち続けます。私たちは、相手の思いに寄り添い、笑顔で暮らせる平和な未来を築きます。』

さあ、みなさんは今、どう考えますか。大切な人との日常が奪われない未来の社会をつくっていくことは、あなたたちの大切な仕事だと思います。そのために、今自分には何ができるのか。75年めの夏に、ぜひ、そんなことも考えてほしいと思います。

2つ目は、「勝つことよりも負けない力をつける」という話です。

1学期の終業式で、左の「メシがくれる大人になる 世の中ルールブック」という本を紹介しました。今日は、皆さんもテレビで見たことがある 斉藤孝先生の「ヤフな大人にならない 生き方 ルールブック」の中から、「勝つ」ことより「負けない力」とは何なのかについて話します。

まずは、「相手を追い詰めすぎない」こと。この絵本にもあるように、人生には勝ち負けが決まる場面があります。そこで、もし君が勝っても、相手を馬鹿にしたり笑ったりしない、いつもと変わらない態度でいるということです。

もう一つは、「やりかえさない勇気を持つ」ということ。テレビドラマなどではよく「やられたらやり返

す…」などということを行っている場面がありますが、それは面白おかしくするためにやっていることであって、実際の場面でやり返すことは、自分も相手も傷つくだけです。相手を恨む気持ちを放り出して、自分から悪い流れを断ち切るのが、本当の勇気です。

他にも、ありますが、一人一人が自分にとっての、「勝つ」ことより「負けない」ということはどういうことなのかを、想像してみてくださいと思います。

3つめの、「自分も他の人も大事にする」ということについても、この絵本の中から考えてみましょう。

まずは、「小さな悪こそ甘く見ない」ということです。「相手が気にしていないように見えたから」、とか、「こんなことぐらいいいだろう」とかいう気持ちを持つことがあります。でも、どんな小さなことでも、積み重なると大きな悪になります。小さいうちに気づくことが、自分も他の人も大事にするにつながります。

もう一つは、「悲しみや怒りを、笑顔でこらえている人がいることを忘れない」ということです。あなたのちょっとした意地悪を、笑って耐えている人がいるかもしれません。悲しみを人に見せないように笑顔で過ごそうと頑張っている人がいるかもしれません。そんなことを想像する思いやりの気持ちをもって、この2学期をすごしてほしいと思います。

今日から2学期がスタートしましたが、熱中症予防と、感染症予防は引き続き注意が必要です。この後、この2つについては、他の先生からもお話がありますので、しっかり聞いて、健康で、安全な2学期にしていきましょう。

最後に、このページを見てください。「未来の自分は幸せになると信じる」

先生たちも、みんなそう信じています。いい2学期になるよう、みんなでがんばりましょう。

これで、始業式の話が終わります。